

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	すまいる.れいんぼー.ぶりっじ		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 3日		～ 令和8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<b>ソーシャルスキルを身に付ける。</b>	未就学児から高校生まで一緒に活動する、 <b>異年齢の療育</b> によって、子ども達はお互いに自分の立ち位置を理解して、上の子を敬い、下の子を可愛がる等、 <b>協調性</b> を身に付けます。年上の子どもをまねて出来るが増え、年下の子のお手伝いをする事で <b>役割を持つことで成長してゆきます。</b>	<b>現実社会にすぐに役立つスキル</b> を楽しみながら、身に付けてもらえる様に、自ら進んで療育に参加出来る様に考えています。幅広い年齢層でお出掛けしたり、お買い物に出掛けたり、公共交通機関の利用の仕方を練習したりと、 <b>沢山の楽しいイベントを通して学んでゆける様に工夫</b> しております。
2	<b>ほっとするアットホームな環境。</b>	子ども達は自宅に帰った様に、くつろぎながら遊びにお勉強に一生懸命です。 <b>第二の居場所として居心地の良い場所になって欲しいです。</b> 未就学児の頃から過ごした子ども達も、のびのびと大きくなり、新しい仲間を迎え入れてくれます。	感受性の高い子ども達は、様々なストレスを抱えています。 <b>ストレスを緩和するために、心地良い居場所が必要</b> です。子ども達は、「ただいまー」と来所し、楽しみます。そんな居心地の良い場所となる様に心がけております。
3	<b>のびのびと成長できる環境。</b>	事業所の敷地内には公園もあり、少し足をのばすと住吉公園や住吉大社があり、その前を路面電車が走っています。大きな子ども達は、住吉公園で大はしゃぎし、小さな子ども達は敷地内の安全な公園で遊具や砂遊び等、楽しみます。 <b>季節を感じながら緑豊かな環境で育ちます。</b>	恵まれた立地条件の中で <b>経験豊富な先生方</b> が子ども達の成長を見守ります。 <b>全スタッフが一人のお子様に対して全力でサポート</b> していきます。スタッフ達は、温かく丁寧なサポートを心掛け、お子様の特性に応じた対応しております。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<b>思い切り泣いたり笑ったりできる環境整備</b>	小さなお子様は遊ぶ中で思いきり泣いたり笑ったりしながら成長するものです。異年齢療育で、大きなお兄さんたちがお勉強中でも思いきり遊べる環境づくりを考えています。	療育内容で、お部屋をブースで区切ったり別室をご用意したりと環境づくりをしています。また、 <b>幼児でも楽しみながらお勉強もできる様に、その子に合わせて課題を作って就学準備</b> しております。
2	<b>特化型ではなく一般型であるこだわり</b>	特色は何ですか？と聞かれる方もおられますが、当事業所はあくまでも子ども達が一般社会に出た時に経験する様々な日常を先に疑似体験してもらい、 <b>将来の日常生活にお役に立ちたい</b> と思っています。一つでも多くの体験を大切にしています。	<b>特化型を体験したい方のために地域の他の事業所さんのところへ相談支援専門員や児童発達支援管理責任者と一緒に訪問</b> しております。子ども達の世界を一緒に広げます。
3	<b>お子様の脳の発達を科学的に知る必要性</b>	お身体の成長は目で見えますが、脳の発達は見れません。しかし療育を行う上で、 <b>お子様お一人お一人の脳の発達状態を知ることはとても重要</b> となります。	<b>バランスという機材</b> を用いて、大スクリーンに映し出されたゲームをタッチしていただけで楽しみながら脳の発達状態を科学的に数値化して出すことができるようにしています。